

令和6年9月5日

東北町議会議長 岡山 粕 男 殿

原子燃料サイクル対策等特別委員会
委員長 蛭 名 竜 也

委員会報告書

本特別委員会は調査中の事件について、会議規則第47条第2項の規定により報告します。

1 調査事件

原子燃料サイクル施設に係る安全確保及び施設周辺の環境保全に関する調査

2 調査の経過

令和6年4月19日（第1回特別委員会、研修会）

3 調査の概要と結果

令和6年4月19日（特別委員会）

本特別委員会は、役場議員控室において、町側から町長、副町長及び担当課長の出席を求め、令和6年度活動計画について及び原子燃料サイクル事業の対応状況についてを議題とし開催しました。

令和6年度活動計画については、町側から視察先についての説明があり、令和6年9月18日から9月20日まで、山形大学医学部東日本重粒子センター（山形県）、女川原子力発電所及び新仙台火力発電所（宮城県）を視察することに決定しました。

また、原子燃料サイクル事業の対応状況については、町側から資料に基づいて説明を受けました。

- ・再処理工場・・・年間最大処理能力：800トン・ウラン、2024年度上期しゅん工予定
- ・MOX燃料工場・・・最大加工能力：130トンHM＊/年、2024年度上期しゅん工予定
- ・ウラン濃縮工場・・・製品ウラン出荷量：約1,702トンUF、2023年度出荷予定なし
- ・低レベル放射性廃棄物埋設センター
 - ・・・受入本数：約36万本、2024年度受入予定本数14,080本
- ・高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター・・・受入本数：1,830本

令和6年4月19日（研修会）

本特別委員会は、役場3階大会議室において、再処理工場と放射線について、日本原燃の方に講演いただき研修を行った。

・講演「再処理工場と放射線」

講師 日本原燃株式会社

安全・品質本部 放射線安全部 放射線安全グループ 高橋孝弘氏

1 放射線の基礎

- (1) 放射性物質・放射線・放射能（用語）
- (2) 放射線の種類
- (3) 放射線の性質（透過力）
- (4) 放射能の減り方（半減期）
- (5) 放射線の単位
- (6) 自然から受けている放射線
- (7) 大地からの放射線
- (8) 身の回りの放射線（食品）
- (9) 世界と日本における放射線（年間）

2 放射線の人体影響

- (1) 人体への影響
- (2) 放射線による人体への影響の分類
- (3) 確定的影響（組織反応）と確率的影響
- (4) 被ばく線量の比較

3 再処理工場の放出管理

- (1) 再処理工場の概要
- (2) 気体廃棄物・液体廃棄物の放出
- (3) 放出管理目標値

4 再処理工場からの影響評価

- (1) 液体廃棄物、気体廃棄物の希釈・拡散
- (2) 放出放射性物質による影響（合計）

5 環境放射線等モニタリング

- (1) 環境放射線等モニタリング
- (2) 再処理施設アクティブ試験における線量評価

【質疑】モニタリングポストはGy（グレイ）表示ですが、何か起きた場合、住民はSv（シーベルト）で判断しなくてはならないので、Gyの表示だと判断するのは難しいと思う。GyをSvへあてはめて考えることはできないか。

【回答】実際には単純に比較できませんが、国では $Gy \times 0.7$ がSvに相当すると示しています。緊急時においては $1Gy = 1Sv$ と換算して迅速な対応をすることにしています。